

資料 2 別紙 2

次年度のモニタリング予定について

環境省屋久島自然保護官事務所

1. ヤクシカの動態把握及び被害状況把握

(1) ヤクシカの生息状況把握

- ・糞塊法により全島の (105 メッシュ) なヤクシカの生息状況 (糞塊密度) を把握する。【モ ID9】

(2) 植生保護柵内外の植生等調査

- ①植生保護柵内外の植生、植物の生育状況を調査して、柵内の回復状況、柵外の植生・植物の回復又は被害状況を把握する。【モ ID11】
- ②ヤクシカの全島の生息状況調査に併せて、簡易な植生調査等により、植生被害状況、樹木剥皮、シカ道状況のモニタリングを行う。【モ ID11】

2. 希少種・固有種の分布状況の把握

平成 23・24 年度に実施した希少種・固有種の分布・生育状況調査を、上記植生保護柵内外調査と同年度に合わせて実施し、併せて緊急的に被害防除を実施すべき種又は個体 (群) の保護方策を検討する。【モ ID12】

3. 利用状況の把握

(1) 主要山岳部における登山者数の把握

- ・荒川登山口～縄文杉、淀川登山口以外の登山者カウンター (太鼓岩～楠川分かれ、高塚小屋～新高塚小屋、モッコヨム岳登山口) については、撤去し、花山歩道、永田歩道及び愛子岳登山道のデータ収集に回す。【モ ID19】
- ・避難小屋でノート設置を継続し、引き続き利用状況を把握する。

(2) 携帯トイレ利用者数

- ・従来の「グループごとの携行率」ではなく、「使用率」を把握できるアンケート調査への変更を検討する。【モ ID21】

4. 利用による植生等への影響把握

(1) 登山道周辺の荒廃状況・植生変化調査

- ・登山道の定点 8 箇所で、登山道の拡幅や植生の状況を調査する。【モ ID24】

(2) 避難小屋トイレ周辺の水質調査

- ・避難小屋トイレ周辺の水場等で水質調査を行う。【モ ID25】

